

令和元年9月4日

豊かな心をもち  
生き生きとたくましく  
共に学び合い 高め合う子  
の育成に向けて

～子ども・保護者・教職員アンケートをもとにした自己評価～

京都市立松ヶ崎小学校

## 1. 「確かな学力」の育成に向けて

○成果 ●全体の課題 ▲個人の課題

◎今後の方針 ①改善のための具体的取組 ◇意見

成果と課題	方針と具体的取組
<p>1. 学び合いの基盤となる学習規律</p> <p>○年度初めに学年主任会で話し合ってから、各クラスでルールや持ち物について指導したので、クラスによる差が出なくてよかったです。</p> <p>○学校として朝読書が浸透している。</p>	<p>◎学級による差が出ないように、学習規律については、今後も、職員会議や学年主任会で話し合って、その意義や指導方法についても共通理解したうえで、子どもたちに徹底していく。</p>
<p>2. 子ども同士の発言がつながる授業</p> <p>●子どもが考えをつないでいくという授業ができないない。</p> <p>●子どもも教職員も、授業中に「子ども同士の発言のつながりが弱い」と感じている。子どもも教職員も、どうつなげたらよいかわかっていない。</p> <p>●子どもも教職員も、できているという実感があまりない。発問や子ども同士のつながりを工夫していく必要がある。</p> <p>●指導を改善しないと、発言をつなぐ授業にならない。もっと取り組んでいく必要がある。</p> <p>●学年でも差があるだろうが、高学年ほど、自分がきちんと考え方たり話し合いの中で認められたりするということが「楽しい」につながるのではないか。</p> <p>●子ども同士の関係がよくないと、発言もつながらない。</p> <p>●教職員自身が、会議や研修の際に発言をつないでいるだろうか。</p>	<p>①発言のつながる授業イメージをもてるよう、すぐれた授業実践の映像を見る。</p> <p style="text-align: right;">【9／12（木） 校内研究にて】</p> <p>②発言のつなぎ方を子どもが理解できるように、つなぐときの型（賛成・反対・比較・関連・質問・補足・具体化・抽象化）を指導し、子どもが授業の中で使いこなせるようにする。</p> <p style="text-align: right;">【2学期末に点検／研究部】</p> <p>③教師が子どもの発言をつなぐために、「〇〇さんの言いたかったこと言える人？」「困っているようだけれど、助けられる人？」などと訊いたり問い合わせたりする。</p> <p style="text-align: right;">【授業公開】</p> <p>④話し合いの内容や規模に応じて、座席の形（一斉型、楽団型、コの字型、口の字型、座席なしで教室前方へ、花びら型等）を使い分ける。</p> <p style="text-align: right;">【2学期中に実施】</p> <p>⑤学級活動や遊びの中で、人間関係づくりを重視する。</p> <p>⑥子どもが自分の言葉で最後まで話す場をつくるとともに、子どもから話を引き出すことを心がける。</p> <p>⑦教職員自身が、会議・研修の場で発言をつなぐために、内容に応じて、進め方（例：少人数での模擬授業、ワークショップ形式、全体での協議など）を使い分ける。</p>

成果と課題	方針と具体的取組
<p>3. 「わかる」「楽しい」授業</p> <p>○肯定的な回答が、親・子ともに9割くらいで、差がなくてよい。</p> <p>○参観日などで、子どもたちの様子を見てもらっていることが、「わかりやすい授業」についての保護者の評価結果につながっているのではないか。</p> <p>▲授業がわかりにくく感じている児童に、支援ができているか。</p>	<p>◇肯定的な回答をしていない子どもたちが1～2割いる。すべての子どもたちにとって、「わかる」「楽しい」授業を目指して授業改善していく。</p>
<p>4. 全体を通して</p> <p>▲子どもたちの評価は高い。「できている」と思っていることはよい。できていない子の言動に目を向けすぎているのかもしれない。</p>	<p>◎指導の徹底とともに、がんばっていることやよさにも目を向けていく。</p> <p>◇「書く」「話す」量をもっと確保していかなければならない。</p>

## 2. 「豊かな心」の育成に向けて

○成果 ●全体の課題 ▲個人の課題

◎今後の方針 ①改善のための具体的な取組 ◇意見

成果と課題	方針と具体的な取組
1. 「あいさつ」「はきもの」	
<p>○学校全体で指導しているので、1学期末には、子どもたちが自分からあいさつしたりスリッパをそろえたりする姿が見られた。</p> <p>○重点を置いているので、子どもたちも関心をもって取り組んでいる。</p> <p>○「あいさつ」特に「はきもの」指導に力を入れていることが、子どもたちにも伝わっている。</p> <p>●自分のことを客観的に振り返る力が弱い。(くつ、トイレのスリッパ)</p> <p>●「あいさつ」「はきもの」について、子どもたちの評価と教職員の見立てとは差が大きいように感じる。</p> <p>▲どのようにすることが求められているのかについて、伝えきれていないのかと反省している。できていないことを気にしそぎている指導になっているかもしれない。</p> <p>●子どもは意識しているが、保護者には学校として取り組んでいることが伝わっていない。</p> <p>●はきものに対しての意識が、学校と家庭で大きく違う。</p> <p>●トイレのスリッパは大分揃うようになってきたが、私たち大人も気をつけていく姿勢が大事。</p> <p>●「あいさつ」「はきもの」を徹底しようという話なのに、教職員が徹底できていない。だから、子どももできない。</p>	<p>◎「はきもの」については、学校だよりで取り上げたり、目指す姿を子どもに伝えたりして、引き続き、学校全体で指導していく。</p> <p>◎「あいさつ」についても、具体的な指導方法を考えていく。</p> <p>①なぜ、はきものを揃えるのか、そのためにどうするのか、ということを子ども自身が考えられるようにする。また、学校として目指す姿を、具体的に示す。トイレのスリッパなら、自分のを揃える…○／自分でなくても揃える○／いつもきれいに揃っている はなまる！ というように。</p> <p style="text-align: right;">【9月第1週】</p> <p>②何のために、どのような取組をしているのかや、目指す子どもの姿と子どもの変容などを、学校だよりやホームページ、学級通信等を活用して家庭にも伝えていく。</p> <p style="text-align: right;">【2学期】</p> <p>②教職員も外の靴箱を使う。</p> <p style="text-align: right;">【2学期 試しにできる人は】</p> <p>③子どもは自分にあいさつされているとわかっていないで、教職員が子どもの名前を覚えて、「○○さん、おはよう！」と顔を見てあいさつをする。</p>

成果と課題	方針と具体的取組
<p>2. 子どもの行動への価値づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●教職員は、子どもをほめていても、子どもには、ほめてもらった、認めてもらつたという実感がない。</li> <li>●子ども自身が認められたと感じるほめ方、タイミングで伝えないと子どもには届かない。</li> <li>▲ほめる量とほめ方をふり返り、子どもに届くようにしなければならない。</li> <li>▲子ども1人1人のことをもっと受け入れて、大切にされていると実感してもらえるようにしなければいけない。</li> </ul>	<p>①ほめるだけでなく、なぜそれが良かったのかを具体的に伝える。写真を効果的に使う。 【2学期中に 担任】</p> <p>②のぞましい姿やがんばっている姿を、校内ネットワークを活用して紹介し、学校として目指す姿を子どもたちと共有する。 【9月中に】</p>
<p>3. ルールの定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●チャイムがなって学習準備に入れていないが25%は多すぎるとと思う。実感としても、時間を守ろうとする様子が見られない場面がある。中間休み終了のチャイムを、もう少し早くならした方がよいのではないか。</li> </ul>	<p>①中間休み終了のチャイムを授業開始4分前にならす。 【9月試験的に】</p>
<p>4. 全体を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ねばり強くしつけを！</li> <li>●指導の徹底に温度差がある。</li> <li>●子ども自身が考えて動く機会がつくられていない。</li> </ul>	<p>①〇年生として目指す姿を、子どもとともに設定する。そして、必ず、ふり返りと評価を行う。</p> <p>◇チャイムでもそうじでもあいさつでも、教員がまずは手本となるべき。そのうえで、できている子をほめていく。</p> <p>◇子どもの前では、笑顔と明るい声を。</p> <p>①委員会やたてわり活動、クラブ活動など、事前に高学年の子どもと打ち合せをすることで、教師主導から子ども主体の活動へと変えていく。</p> <p>【2学期】</p>

### 3. 「健やかな体」の育成に向けて

○成果 ●全体の課題 ▲個人の課題

◎今後の方針 ①改善のための具体的取組 ◇意見

成果と課題	方針と具体的取組
<ul style="list-style-type: none"><li>●遊び方を知らない子どもが多い。</li><li>●子どもたちが遊びを開発する姿勢が少ない。</li><li>●外遊びの種類が少ない。遊びを知らないので、教えないといけない。</li><li>●外遊びの好きな子が多いのに、教職員の半数以上は力を入れていない。</li><li>●外遊びをする子どもは多いが、遊びのバリエーションが少ない。</li><li>●子どもは外で遊んでいるが、大人はその様子をどこまでわかっているのか。</li><li>●「敏捷性」を高める運動や遊びを、体育の授業の中にとり入れられていない。</li></ul> <p>○のびのびと安心して外遊びができる環境がある。</p>	<p>①体育委員会から遊びの提案を行っていく。</p> <p>②休み時間に、教師が遊びを紹介する。「こんな遊びがたのしいよ。盛り上がるよ。」ということを、職員室でも話題にして、まずは、教師自身が遊びの引き出しをたくさんもつ。</p>